

リスク見積りと評価

洗い出された危険要因に対して、リスクの見積り・評価を行きましょう。

- ・リスクの見積り・評価は複数の人で実施しましょう。
- ・細かく見積もらないで大まかに見積りましょう。
- ・リスクの見積りについては、危険要因の洗い出しの「～するとき、～したので、～になる」から、具体的な災害の起こる可能性とケガの程度を想定してみましょう。
- ・リスク見積りは、作業内容をよく考えて、十分話し合い、グループの総意として決めましょう。
- ・そのリスクの大きさを明らかにしましょう。

リスク低減対策

リスク低減対策の検討を行う場合、リスクの高いものから優先的に検討を行きましょう。

- ・どのようにしてリスクを小さくするかを考えましょう。
- ・リスクゼロを目指すのではなく、リスクを十分に低いところまで引き下げましょう。
- ・作業全体を要素のつながりとして検討し、リスク低減対策の方向を見誤らないようにしましょう。
- ・物事を裏返しにして対策にしないで（「材が宙吊りになる」→対策「材を宙吊りにしない」）、具体的に低減対策を考えましょう。
- ・リスク低減対策の検討は、次の順序で検討しましょう。
 - ① 先ず危険作業をなくしたり、見直したりして、リスクを小さくすることを検討しましょう。
 - ② 次に、何か機械や設備などで対策がとれないか検討しましょう。
 - ③ 3番目に、チェーンソー用防護衣など安全保護具の使用を検討しましょう。
 - ④ 4番目に、教育訓練、作業管理等の対策を検討しましょう。
- ・コストの大小でなく、妥当なリスク低減対策を検討しましょう。

対策後にリスクの見積り・評価を再度行い、リスクが十分に低減されているかどうかを検討しましょう。

リスク低減対策の一例（参考）

実際には、「危険要因の洗い出し」→「リスクの見積り・評価」を経て、「リスク低減対策」を検討しますが、ここでは、先のヒヤリハット事例に対応したリスク低減対策の一例を参考までに掲げておきます。番号は、ヒヤリハット番号と対応しています。

〈伐倒作業〉

- 1) 登はん道具及び安全帯を使用する。
- 2) キックバックの防止等チェーンソーの取扱い方法を再教育する。
- 3) 伐倒作業の基本を再教育する。

- 4) つるの残し方等の伐木方法を再教育する。
- 5) つるがらみの木の場合の伐木方法を再教育する。
- 6) 伐倒方向にある隣接木の状態を事前に確認する。

〈かかり木処理作業〉

- 7, 8) かかり木処理の機械器具を使用してかかり木をはずす。
- 9) かかり木の状態を事前に確認する。
- 10) かかり木処理器具の使用方法を再教育する。

〈造材作業－枝払い〉

- 11) チェーンソーによる枝払いの方法を再教育する。
- 12) 支え枝を切る前に材を固定しておく。
- 13,14) チェーンソーによる枝払いの方法を再教育する。

〈造材作業－玉切り〉

- 15) 玉切りの前に材を固定しておく。
- 16) くさびを用いたチェーンソー玉切りの方法を再教育する。
- 17) かかり木を放置せざるを得ない場合は、ロープ等で「立入禁止」の措置をする。

〈集材作業－荷かけ・木寄せ〉

- 18) 足場が悪くなることを回避するため伐倒と併行して集材を行う。
- 19) 荷かけ者は残存木の陰等の安全な場所に退避する。
- 20) 向柱を設置して集材の方向を変える。スリングロープの点検を行い、傷んだスリングロープは使わない。
- 21) 運転室にガードを設ける。
- 22,23) 機体の転倒を防止するための安全装置等の設置を行う。
- 24) 先柱に使用する立木の状況を事前に確認する。

〈集材作業－荷はずし〉

- 25,26) プロセッサあるいはグラップル等の機械により、把持した状態で荷はずしを行う。

改善に当たり考慮すべき事項

- ・ 対策後のリスクレベルが確保されるよう、具体的な方法を検討しましょう。
- ・ 具体的な実施にあたっては、ないものねだりをせず、一步一步前進していくように優先順位をつけて実施しましょう。
- ・ アセスメントの実施結果を作業員全員に周知し、事業者と作業員が一緒になって取り組みましょう。